

Ⅱ．研修別報告

3．専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会

専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会

キーワード： 高度実践看護師 専門看護師 役割発揮 専門看護師の継続教育

I. はじめに

本学は、平成 21 年度より大学院に専門看護師コースを設け、慢性看護、小児看護、がん看護の 3 分野の専門看護師を養成してきた。専門看護師は、当該専門領域において、卓越した看護の実践、看護職に対する教育、ケア提供者へのコンサルテーション、関係者の調整、実践の場での研究、倫理的調整などの諸活動が遂行できる実践能力をもち、看護現場においてさらなる活動の発展が期待されている。本学では、令和 3 年度までに 21 名の専門看護師が認定され、県内をはじめとする医療機関等に送り出してきた。内訳は、慢性看護 8 名、小児看護 3 名、がん看護 10 名である。また令和 3 年 12 月現在、岐阜県では本学修了者を含め 7 分野 38 名の専門看護師が活動している（日本看護協会 HP）。

日本看護協会では、専門看護師のレベル保持のため認定更新制を施行し、認定を受けてから 5 年ごとに更新審査を受けなければならないと示している。各分野において看護のリーダーとして活動する専門看護師は、看護実践の質向上の努力をし、自己の看護実践能力のレベルを維持向上させていかななければならない。更新審査では、「研修」と「研究」の両分野での一定数の活動実績が必要とされる。「研修」では「専門看護分野に関する最新の情報・知識・技術の修得のための研修プログラムへの参加」「専門看護師事例検討会等の専門看護師および専門看護師教育課程修了者を対象とした研修プログラムへの参加」が推奨されており、資格更新の条件として、研修を積むことが必須である。

本学では、平成 28 年度に県内で活動する専門看護師を対象に活動状況と研修のニーズについて調査し、以後、先駆的な活動をしている専門看護師の講演や日々の活動を検討するグループワーク研修会などを実施し、令和元年度には県内で活動する 4 名の専門看護師が企画者となって「第 1 回事例検討会」を実施した。当初、本事例検討会は毎年 1 回実施する計画であったが、令和 2 年度は COVID-19 の感染拡大に伴って同様の内容による実施が困難となった。しかし、感染症パンデミックという非常事態にあつて、看護のリーダーとして活動する専門看護師は多くの課題を感じていると考え、令和元年度に事例検討会の企画を担当した専門看護師 4 名と教員が参加し、COVID-19 感染流行下の専門看護師の活動状況の報告と意見交換をオンラインで実施した。研修会では、感染拡大に伴う患者・サービス利用者の状況や日々の看護活動の困難さなどについて共有するとともに、これまで体験したことのない状況下で看護実践のリーダーとして活動する専門看護師にとって、立場を同じくする人たちと交流は活動継続の支えやエネルギーとなり、さらに困難な状況を超えていくための方策を考える貴重な機会になることを確認した。

そこで、令和 3 年度も COVID-19 感染流行下の専門看護師の活動状況の共有を目的に研修会を開催するとともに、本学修了者の要望を受け、新たに専門看護師資格 5 年目更新審査受審に向けた研修会を企画した。

II. 担当者

奥村美奈子（看護研究センター）
布施恵子 船橋真子（成熟期看護学領域）
藤澤まこと 柴田万智子（地域基礎看護学領域）
岡永真由美 茂本咲子（育成期看護学領域）
橋本麻由里（機能看護学領域）

III. 実施方法

1. 学内教員による検討会

(1) 第 1 回検討会

第 1 回検討会を令和 3 年 7 月 28 日（木）17 時～18 時に開催した。昨年同様、令和 3 年度も COVID-19 の感染状況を考慮し当初事業計画の再検討が必要と考え、①県内で活動している専門看護師支援の実績報告、及び既の実施した②「第 1 回専門看護師資格 5 年目更新審査に向けた研修会」結果を共有し、当初計画を修正せず、COVID-19 感染流行下の専門看護師の活動に関する意見交換会と今後 5 年目更新審査受審を予定している専門看護師（資格取得後 1～4 年目）を対象とした研修会開催を決定した。

(2) 第 2 回検討会

第 2 回検討会を令和 3 年 9 月 27 日（月）16 時～17 時に開催した。COVID-19 感染流行下の専門看護師の活動に関する意見交換会について検討を行い、「コロナ禍における専門看護師の活動と課題」をテーマに令和 4 年 2 月 10 日（木）にオンラインで開催することを決定した。内容としては、県内で活動する専門看護師 3 名による活動の現状と課題の報告の後に参加者全員で意見交換をすること、対象者は日本看護協会 HP で公開している岐阜県内の専門看護師と本学を修了し県外で活動する専門看護師

に決定した。また、専門看護師資格取得後1～4年目を対象とした研修会については、再度ニーズを確認した後開催するか否かを決定することにした。

(3) 第3回検討会

令和4年11月19日(金)15時～16時に開催した。内容は、①「コロナ禍における専門看護師の活動と課題」についての研修会、②専門看護師資格取得後1～4年目を対象とした研修会についての2点を検討した。①については、詳細なプログラム、実施後アンケート、教員の役割確認等を検討した。②については、令和3年12月15日にオンライン開催を決定し、今年度5年目更新審査を受審した専門看護師3名から5年目更新審査に向けて準備すべきこと語ってもらい、その後参加者と質疑応答の時間を設けることを決定した。

(4) 第4回検討会

令和4年1月18日(火)17時～18時に開催した。内容は、①専門看護師資格取得後1～4年目を対象とした研修会の評価、②「コロナ禍における専門看護師の活動と課題」についての研修会であった。①では、研修会参加者から好評を得たことや、研修会が単に資格更新の目的だけでなく、専門看護師としてどのように活動すべきかを考える機会にもなったことを共有し、今後も継続することを決定した。②については、プログラム等の最終確認とともに、本学専門看護師コースの在学者も参加対象者とすることを決定した。

2. 専門看護師の実践の向上を目指す研修会

1) 専門看護師資格5年目更新審査受審に向けた研修会

(1) 第1回研修会(対象者:令和3年度「専門看護師資格5年目更新審査」受審予定者)

令和3年10月に専門看護師資格3年目更新審査受審予定者3名(本学修了者:がん看護専門看護師2名、慢性疾患看護専門看護師1名)が出席し、令和3年7月8日(木)18時～20時にオンライン研修会を開催した。当日は、アドバイザーとして既に5年目更新審査を経験している本学修了者のがん看護専門看護師1名と教員4名が参加し、受審予定者が作成した申請書類について意見交換を行った。アドバイザーの専門看護師から、審査書類について①専門看護師に求められる「卓越した看護実践」が明確になるよう記述する、②専門看護師の各役割と取り上げた事例の特徴を意識し、専門看護師のアセスメントが明確になるように記述する、の2点について助言があった。

研修会終了後にアンケート調査を実施し、3名全員から回答と報告書での結果活用の了解を得た(回収率100%)。研修会の開催は全員が良かったと答え、その理由は「5年間の計画を専門的な視点でまとめることは困難であるため、助言があると助かる」「他者から具体的な評価、アドバイスが得られることで報告書が充実する」などであった。次に、研修会の時期については全員が遅いと回答し、「5年間の活動を整理し記述する必要があるため、できるだけ早い時期から準備ができるよう研修会を計画してほしい」との要望が確認できた。本研修会の学びとしては、「自身の活動の振り返りができ、各助言を報告書作成に活かすことができる」といった意見が得られた。また、研修会を継続して実施することについては、3名全員から継続が必要との回答があった。その理由は、専門看護師として活動する中で悩みが多く、また複数の専門看護師が活動する施設が少ない現状において、研修会を通じて他施設の専門看護師と交流できることは、活動を継続するうえでモチベーションになるといった内容であった。

(2) 第2回研修会(対象者:資格取得後1～4年目の専門看護師)

令和3年12月15日(水)18時～19時にオンライン研修会を開催した。参加者は4名(家族看護1名、慢性看護1名、がん看護2名)であった。まず、本年度受審をしたアドバイザー3名が自身の経験をもとに5年目更新審査受審までの過程や準備すべきことなどを紹介し、その後質疑応答の時間を設けた。

研修会後にアンケート調査を実施し、7名全員から回答と報告書での結果活用の了解を得た(回収率100%)。7名全員から参加して良かったとの回答があり、その理由は、「更新に向けてやるべきことが分かった」「他施設の専門看護師と交流が図れた」といった内容であった。また、今後の研修会継続についても7名全員から必要との回答があり、「更新審査や認定審査に有利である」といった意見や、「他の専門看護師との交流を通して日々の活動や審査に向けて頑張れる」との回答もあった。その他、経験や専門分野によっても悩みなどが異なることもあるので、分野別と分野を超えた交流の両方があると良いとの要望もあった。また、アドバイザーを担当した専門看護師から、「自分自身の5年間の活動を報告することで、専門看護師の活動で何が重要かを明確にすることができた」との意見があった。

2) 「コロナ禍における専門看護師の活動と課題」研修会

開催日時:令和4年2月10日(木) 開催時間18時～19時50分

参加者:県内外で活動する専門看護師13名

(慢性疾患看護3名、がん看護5名、精神看護2名、急性・重症患者看護1名、家族看護1名、老年看護1名)、本学教員8名

会場及び方法：岐阜県立看護大学と各専門看護師の参加場所を繋いだオンライン会議

(1) 研修会の概要

まず、話題提供者 3 名（急性・重症患者看護専門看護師・精神看護専門看護師・家族看護専門看護師）から各 15 分程度で COVID-19 流行下における専門看護師の活動状況や課題について報告を得た。

その後の意見交換会では、面会制限を余儀なくされる状況での家族支援の難しさについて共有され、各施設での家族支援の実際についても紹介された。また、コロナ禍が長期化する中で、看護スタッフのメンタルヘルスケアについても意見交換がなされ、日々の看護活動で常に感染予防に留意し、加えて黙食やプライベートでの気分転換が難しい現状から看護職のストレスが蓄積しているとの発言があった。また、精神看護専門看護師からは、看護スタッフ向けのメンタルヘルス活動の実際について紹介があった。また、スタッフ看護師だけでなく、看護管理者のストレスも高いとの発言があり、看護管理者の立場から自身の状況やスタッフ看護師への思いなどが語られた。

(2) 研修会実施後のアンケート結果

研修会実施後に Microsoft Forms を使用してアンケート調査を実施した。結果は 13 名全員から回答が得られ（回収率 100%）、報告書での結果活用への理解も全員から得られた。アンケート結果は、選択肢の回答については単純集計及び回答者の割合を算出し、自由記述は記述内容を要約し、意味内容の類似性で分類した。以下【】で分類名を記した。

研修会に参加した専門看護師の経験年数は、1 年未満 1 名、1～5 年未満 4 名、5 年以上 10 年未満 6 名、10 年以上 15 年未満 1 名、申請予定者 1 名であった。現在の所属は病院 10 名、訪問看護ステーション 2 名、その他 1 名であった。研修会については、とても良かった 7 名（53.8%）、良かった 6 名（46.2%）で、良くなかったとの回答は無かった。

次に、研修会へ参加を通じて自身の活動について考えたことや課題と感じたことについては 13 名から回答を得た。その内容は、【専門看護師としての活動の振り返り】【面会制限の状況で実施できる看護】【目指したい看護】【看護師育成や教育】【専門看護師が介入する必要があるコロナ治療に関連した課題出現の可能性】【領域ごとの苦悩があると感じた】【参考や勉強になった】【頑張る人から元気をもらった】に分類できた（表 1）。

また、研修会の運営に関する意見は 8 名から回答があり、「Zoom 開催で参加しやすかった」「聴きやすい環境であった」「意見交換ができる人数だった」との評価とともに、時間が延長したことに対して時間厳守や一部音声の不調についての指摘があった。今後の研修会についての要望や意見は 8 名から回答があり、分野を超えた交流の継続や人材育成に関する研修会の要望等が得られた。

IV. 教員の自己点検評価

令和 3 年度は、昨年度に引き続き「コロナ禍における専門看護師の活動と課題」をテーマに、長引くコロナ禍での看護活動や課題等について共有と意見交換を実施した、当日は、6 分野 13 名の専門看護師が参加し、資格取得後の経験年数も幅広く、分野や経験等を超えて交流を図る機会となった。また、研修会の意見交換やアンケート調査結果から、コロナ禍が長期化する中で、サービス利用者と提供者双方に困難な状況が生じていることが確認できた。その中であって、看護のリーダーである専門看護師は、自らの責任を自覚して役割を遂行し、より良い看護が提供できるよう努めていた。一方、責任ある立場にあることや、所属施設で専門看護師として活動する人たちが少ない中で、他者と悩みや課題を共有し難い現状にあった。研修会について、参加者全員が参加して良かったと回答していることや、研修会に参加し【参考や勉強になった】【頑張る人から元気をもらった】などの意見から、今回の研修会は、専門看護師が日々の課題や悩みを共有するとともに、明日からの看護に活かすことができる研修会になったと評価する。

また、今年度新たに企画した専門看護師資格 5 年目更新審査受審に向けた研修会については、第 1 回、第 2 回とも参加者より好評を得ることができた。この研修会は、専門看護師からの要望で企画したものであり、ニーズに合致したものであった。専門看護師は資格取得がゴールではなく、「卓越した看護実践」とは何かを追求し、専門看護師としての役割発揮・開発を継続することが求められる。資格取得から 5 年間は専門看護師の活動について模索する時期でもあり、今回の参加者の意見にもあるように、身近に専門看護師がいない中で、自身の活動について悩むことも多い。また、多忙な日々の中で、自らの活動を振り返り、評価する機会を逸してしまい、結果的に 5 年目更新が間近に迫って受審の対応をするといった状況も生じやすい。専門看護師としての役割を發揮する上で、自らの活動を振り返り、評価、意味づけていくことは重要なプロセスである。そのためにも、今回のような先輩の専門看護師や教員を交えた研修会を継続実施することは必要であると考えた。

最後に、今回全てをオンライン研修会とした。問題なく実施でき、また「コロナ禍における専門看護師の活動と課題」研修会では 13 名の参加を得ることができた。オンラインは感染予防対策の一環として昨年度から取り入れた方法であるが、多忙な専門看護師にとって参加しやすい手段であり、利便性から after/with コロナにあってもオンラインを積極的に活用してくると良いと考える。

表1 研修会に参加して自身の活動について考えたことや課題に感じたこと

分類	要約
<p>専門看護師としての自分の活動の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専門看護師としての活動を振り返りたい。 ・他分野の活動を知ることによって自身の専門領域での活動を振り返ることができた。 ・意識的な関わりを実施する必要性を改めて考える機会になった。 ・コロナの影響で周りの人々が疲弊している時こそ、自分が余裕を持てる術を持ち、周りを支えるための視野と行動を大事にしていきたいと感じた。
<p>面会制限の状況で実施できる看護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の面会制限などでストレスを抱えている家族に目を向ける必要性に気付かされた。 ・面会制限で不安がある患者や家族に対して実施できるケアを考えることができ、患者の様子を家族に伝えるようにしたい。
<p>目指したい看護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響をプラスにできる看護を目指したいと思った。
<p>看護師育成や教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で働く看護師は看護にやりがいを持ってずに疲れと限界を感じて、離職する看護師が急増しているという状態において、目の前のことに追われてしまいスタッフに看護実践を介して関われないことが辛い状況であるが、日々の看護実践にやりがいを持つ看護師を育成したいと思う。 ・コロナ禍の課題は多岐にわたり、新人看護師と卒後2年目看護師は今までとは異なる看護の世界を体験していることから、先輩看護師または上司として支援していく必要性を感じている。 ・スタッフ教育に力を入れていきたい。
<p>専門看護師が介入する必要があるコロナ治療に関連した課題出現の可能性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナワクチンや治療薬は解明されていない未知の側面を持つため、遺伝子への影響からがんの発生がどのようになるかなど、がん看護専門看護師として関わる必要がある様々な課題が存在する可能性を感じる。
<p>参考や勉強になった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参考になった。 ・勉強になった。 ・他領域の専門看護師と話せて勉強になった。
<p>頑張る人々の存在から元気もらった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野で頑張っている人々の存在を感じて元気をもらえた。
<p>領域ごとの苦悩があると感じた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・領域ごとの苦悩があると感じた。